

会議録

会議の名称	第4回 西東京市地域コミュニティ検討委員会
開催日時	平成24年2月29日
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 5階502会議室
出席者	委員：伊村委員（委員長）、伊藤委員（副委員長）、岡村委員、工藤委員、志村委員、菅野委員、土方委員、丸山委員、望月委員 事務局：協働コミュニティ課長、協働コミュニティ課市民活動推進係長、協働コミュニティ課市民活動推進係主事、株式会社エックス都市研究所
報告事項	(1) 先進自治体の視察結果（その2）について
議題	(1) 自治会・町内会を中心とした地域コミュニティのあり方について 1.地域コミュニティのあり方 2.自治会・町内会活動に関わるアイデア・メニュー 3.地域コミュニティ強化の進め方
その他	(1) 平成24年度の進め方について (2) 次回検討委員会開催日について
会議資料の名称	資料 (資料1) 視察結果の概要 (資料2) 自治会・町内会を中心とした地域コミュニティのあり方について (資料3) 平成24年度の進め方について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>事務局： 第4回西東京市地域コミュニティ検討委員会を開会する。まず、本日の議題を確認させていただく。</p> <p>議題の確認</p> <p>次に、資料の確認をさせていただく。</p> <p>会議資料の確認</p> <p>報告事項 (1) 先進自治体の視察結果（その2）について</p> <p>委員長： まず、報告事項 (1) 先進自治体の視察結果（その2）について事務局から説明願いたい。</p> <p>事務局： 資料1について説明</p>	

委員長：

事務局から説明があったが、何か、意見や質問などはあるか。
視察に参加された委員の方々から意見を承りたい。

委員：

調布市でも、何十年か前に合併したという話を聞いて驚いた。また、活動の拠点があるのが西東京市と違うところだという印象を受けた。

地域カルテなど変わった取組を行っているが、同じような取組を西東京市ですぐに行うのは難しいという印象を受けた。

委員：

自治会・町内会の歴史があること、そしてその歴史のある自治会・町内会に対して、行政がしっかり支援をしていることが窺えた。

調布市の町内会加入率は、50 パーセントほどとのことだが、しっかりと支援を行わないと、それほどの加入率を維持できないと感じた。

委員：

調布の視察とは話が変わるが、現在、各学校に地域安全連絡会を作って話し合いをしている。保谷第一小学校の連絡会では、防犯関連の話題よりも、防災関連の話題が多く出ている。地域として災害が来ても対応できるようにしなければならないという議論がおき、地域の自治会・防犯、社会福祉協議会など様々な団体が入って対応していこうといった議論になっている。

また、校長会が教育委員会に、災害が起きた時、昼間は学校職員がいるからよいが、夜間は学校職員がいないので、その際の住民対応をどうするのかといった逆提案をしているそうである。

自治会を作ることを強調するよりは、学校区にある様々な組織をどうまとめていくかを検討することが重要なのではないかと感じている。

委員長：

保谷第一小学校は、お声掛けをしたら協力できそうな雰囲気か。

委員：

小学校だけでなく、校長会も協力的である。

委員：

保谷第一小学校のエリアでは、自治会がないので、運営協議会、PTA や育成会などが検討を行っている。

話を戻すと、調布市は、各団体のまとまりが良いと感じた。地域カルテによって、個々の団体がまとまっていくことは良いことだと思う。

委員：

市がかなり支援を行っているという印象を受けた。また、地区協議会が、市に提案していることは素晴らしいと感じた。

委員長：

パンフレットの中に、調布市内の地図があり、地区協議会が立ち上っているところに色が塗られている。その地図を見ることで、色が塗られていない地域はやらないといけないといった感じになるのではないかと思った。

委員：

調布市も西東京市と同様、自治会が減少している中で、地域のコミュニティが盛り上がっているのは良いことである。自治会再生よりは、様々な組織が存在し、頑張っている方々が多いので、そうした組織をまとめる地区協議会の仕組みはいいと思う。

また、小学校区単位の広報誌は、非常に良い取り組みではないかと感じた。

委員長：

調布市にあって、西東京市にないものは「拠点」であると思う。拠点は必要だと思う。地域の方にとって身近な範囲は、小学校区ではないかと思う。

調布市の場合も、ここまで来るのに年月がかかっている。直近の成果を求めるよりは、少しずつ継続して努力していかなければならないと感じている。

それでは、議事に移りたいと思う。

議事 (1) 自治会・町内会を中心とした地域コミュニティのあり方について

1.地域コミュニティのあり方

事務局：

資料 2 について説明

委員長：

特に意見はないか。意見がないようであれば、次の議題に移りたい。

議事 (1) 自治会・町内会を中心とした地域コミュニティのあり方について

2.自治会・町内会活動に関わるアイデア・メニュー

事務局：

資料 2 について説明

委員長：

何か意見はないか。

委員：

東京都には、平成 22 年度まで防犯の要求が多かったが、3.11 の影響で、市民の意識が変わってきたものと思われる。地域の絆に関心をもつようになったのではないかと感じている。

防災への対応を自治会がすべてできればよいが、なかなか難しいので、横のつながりをどう築いていくかが重要になってくるのではないかと思う。

防犯にしろ、高齢者の見守りにしろ、今ある自治会だけでなく、他の団体などとの横の連携ができれば、それなりの組織ができ、対応しやすいのではないか。

また、女性の町内会長が少ないという新聞記事を目にしたが、女性のほうが、地域のこと細かいところに気が付くので、これからは女性の町内会長が増えてもいいのではないか。

委員：

横のつながりについてであるが、事務局の説明で、地域コミュニティの課題には地域差があるということをおっしゃっていたが、その要因はどこにあると考えているか。

事務局：

ある自治会長は、民生委員が、担当の高齢者のお宅を訪問する際、その高齢者のお宅が、民生委員の自宅からかなり遠いため、災害時などに見守りに行けるかどうかかわからないとおっしゃっていた。また、その近くの都営住宅の自治会では、シルバーピアを事業として実施しているが、その都営住宅の自治会長自身が 80 歳を過ぎている。自治会長自身が倒れたら、誰が見守りを行うのかといった課題があるようである。その都営住宅のように、いつそういった状況になるか分からないところもあれば、地域によっては団結しているところもあり、地域でしっかりと見守りができる地域もある。

女性の自治会長という点であるが、もともと田無地区は女性の会長が多い。西東京市の中でも様々な特徴があると感じている。また、ひばりが丘団地は、東久留米市と西東京市にまたがっているが、自治会は一つである。そういった特殊な地域も西東京市にはある。このように、西東京市は、地域によって状況が異なるのではないかと思う。

委員長：

それでは、次の議題に移りたいと思う。

議事 (1) 自治会・町内会を中心とした地域コミュニティのあり方について

3.地域コミュニティ強化の進め方

事務局：

資料 2 について説明

委員長：

何か意見はないか。

委員：

地域コミュニティの活性化イコール自治会・町内会の復活だとは思っていない。地域コミュニティの活性化は、いろいろな方法があつていいのではないかと思う。自治会・町内会の再構築は重要であるが、それ以外の様々な地域で活動する団体も、地域の中のコミュニティの1つであると思う。それぞれの団体の持つ意義や役割はそれぞれあるものと思われる。そういった団体も併せて再構築していくことが重要になるのではないかと思う。

今後は、地域コミュニティの再構築の呼び水になるような具体的な支援策を検討していくことが大切なのではないかと思う。

委員：

事務局にお尋ねしたい。西東京市内の自治会・町内会は、輪番制が多いのではないか。

事務局：

おっしゃる通り輪番制が多い。

委員：

輪番制にはメリットもあるが、デメリットもあると思う。やりたくない人が会長に任命されると、何もせずに1年間我慢して続けることになる。これが、自治会・町内会の衰退の要因なのではないかと思う。

会長をやれるような人を発掘できる仕組みが分かれば教えてほしい。輪番制だと人が育たないのではないかと思う。

事務局：

データはないが、旧田無では、募金だけをやっている町内会・自治会が多い。一方、旧保谷では、募金はやっていないが、回覧板は回しているところが多い。

おっしゃる通り、「1年我慢すればいい」という考え方をもった方もいらっしゃる。したがって、各自治会・町内会では、年によって波があるのは事実である。

委員長：

会長以外に役員はいるか。役員も含めて、輪番制になっているのか。

事務局：

役員もいる。役員も輪番制となっているところが多い。

委員長：

役員も半分ずつ代われれば、少しは継続性があるものになるのではないかと思う。

委員：

「〇〇町内会秋祭り」といったような形で、祭りに町内会の名前が付されていると、その町内会に入

っている人たち以外の方が、祭りに参加しにくい。

事務局：

荒屋敷自治会の祭りでは、練馬区の子供が多いとのこと。会長の話では、自治会以外の方も大歓迎であるとのことである。

委員：

学校単位で組織化して祭りを行っていけば、良いのではないかと思う。

委員長：

小学校区はまちの基本である。

委員：

育成会では、学校単位で様々な催し物を行っている。地域の方もたくさん来ていただいている。他の小学校区にもチラシを配ったら、他の小学校区からも人が集まるようになってきた。何となくまとまりが出てきたように感じている。

委員長：

学校単位の組織ができれば、小学校側に負担をかけずに運営ができる。

委員：

小学校区単位のイベントとはいえ、中学生や高校生などの卒業生も参加してもらえている。

委員長：

そうした活動が続くと、地域愛、郷土愛が生まれ、30年後、50年後、西東京市に戻ってきたいと感じる方が増えるのではないか。

委員：

今の点は、モデル事業をやる際の一つのヒントになるのではないか。

モデル事業と同時に、あいさつ運動のように、誰でも気軽にできるような活動から進めていくことも大切なのではないか。そういった工夫もガイドブックに載せられると良いのではないか。

委員：

私の自治会では、全世帯が加入していて、脱会者がいない。この自治会のエリアには、かつて草が生い茂った未利用地があった。地主の方に、「公園にして、自治会で管理させてほしい」と了解を得て、公園を整備した。公園が使えるようになって、様々なイベントを行うようになってから、地域が変わったと感じている。防災訓練などにも人が集まるようになった。子供もあいさつするようになった。

委員長：

いい学校は、子供たちがよくあいさつをする。そういう学校区を校長先生と一緒に歩くと、ご近所の方が校長先生に声を掛ける姿をよく目にする。

委員：

初期消火訓練を先日行ったが、子供たちがたくさん集まった。その際写真を撮って後日掲示したが、子供たちは自分たちの写った写真のことについて自慢げに話をしていた。

防災訓練などは本当はやりたくはないが、できるだけ楽しくできるようにと工夫している。

委員長：

ぜひ、いろいろなアイデアを事務局のほうで書きためておいていただきたい。

委員：

ボランティアはその人の意識の問題である。私は、地域の学校付近に立ってあいさつ活動を継続的にやっている。はじめは不審者扱いされていたが、最近は、声をかけてくれる人が増えた。

子どもとのあいさつは継続的に行っていくことが必要である。最近は、あいさつ活動を行っていて、楽しいと感じる。楽しいということが大切だと思う。

委員：

学校区で何か取組を行うことは非常に大切なことだと思う。ただし、校長先生や PTA は、変わっていくものである。学校を拠点に何かを行ったとしても、校長先生が変わると大きく変わってしまう。PTA も 1 年で変わると、全く違うものになる。誰か継続的に学校を見守る人がいないとうまくいかないのではないかと感じている。

委員長：

人材育成が課題という話が出たが、防災関連の活動で、行政の方とかかわる時、上手くコミュニケーションが取れるようになったと思った時に、担当者の方が異動されてしまうという経験はよくある。

委員：

校長先生が変わっても、その学校区がしっかりしていれば、校長先生がそこに寄り添ってくださり、うまくいくことが多い。

委員：

声かけ運動を先日行ったが、親に「よその人と話してはいけない」といわれている子どもがいるようである。

委員長：

100 人の子供がいて、99 人がよその人と話をするとすれば、1 人の子供は、きっとよその人と話したくなるのではないか。

委員：

最近、あいさつ活動を行っていたら、40 代の夫婦に声をかけられた。相手は私の名前を知らないし、私も相手の名前を知らない。しかし、いろいろとお話することができ、楽しみを感じている。何かするには、楽しくないと続かないのではないかと思う。

委員長：

いろいろな意見が出たので、事務局側でぜひしっかりと書きとめていただきたい。今年度最後の検討委員会となるが、今回までの委員会と先進自治体への視察を踏まえ、今年度の委員会のまとめをしたい。大きくは 5 点あったかと思う。

1 点目は、西東京市のこれまでの主な経緯ということで、高齢化等による自治会・町内会が弱体化している一方で、他の地域組織の活動が増えている状況にあるということ。

2 点目は、地域コミュニティ再構築の取組の背景として、東日本大震災以降、地域が身近に抱える課題への早急な対応が求められているということ。

3 点目は、地域の底力が発揮できる地域コミュニティ再構築の取組が必要であるということ。

4 点目は、地域コミュニティを担う自治会・町内会の弱体化、加入者の減少に対する取組が必要であるということ。

5 点目は、地域コミュニティの課題から考える方向性ということで、西東京市には、自治会・町内会の空白地域があるほか、そういうところに対して、どのような仕掛けをしていくべきか、たとえば、人材育成、加入促進の活動などを進めていくことも大切なことであるということ。

以上が簡単なまとめであるが、今後、この委員会をどう進めるべきかという点について、事務局から説明いただきたい。

その他 (1) 平成 24 年度の進め方について

事務局：

資料 3 について説明

委員長：

資料の中で、基本方針の作成という箇所があるが、これを 1 年程度で行いたいと考えている。パブリックコメントの実施などを考えると、素案の作成を夏までに行うことになると思うが、そのような理解でよいか。

事務局：

パブリックコメントについては、中間とりまとめについてのパブリックコメントを 1 度行いたいと考えている。それをもとに、素案を整理し、もう一度パブリックコメントを実施し、その意見を素案に反映させたいと考えている。この点については、再度詳細を詰めて、ご連絡したい。

委員：

一定の方針が出たら、実行してもらいたいと考えている。

委員：

私は、総合計画の策定にもかかわっている。この基本方針が総合計画に載せられるようなスケジュールリングをお願いしたいと思う。

委員長：

次第にある次回検討委員会開催日について、事務局より説明願いたい。

その他（2）次回検討委員会開催日について

事務局：

できれば、4月下旬から5月初めに実施したいと考えている。また後日、日程調整させていただきたい。

以上